

町を代表しているからかまひん町は応援する

ホンダ熊本の都市対抗野球本選出場を受けて、大津町は「第80回都市対抗野球大会大津町代表応援団派遣実行委員会」を立ち上げた。町をあげて応援することで、町の一体感を高め、スポーツの振興を狙うことが目的だ。この「町民応援団」は平成14年度の出場から行われており、6年ぶりの今回で3回目の結成だ。1回戦から3回戦までで参加した人数は、総勢70人以上になった。

都市対抗野球大会は、各地域の応援も特色があり、応援合戦も見ものである。応援では伝統の「大津音頭」を全国大会の場で披露した。町民応援団用につくられた黄色いハッピは東京ドームを黄色に染め、唯一の町代表である大津町を強くアピールした。



本選開幕

そして、8月21日東京ドームで第80回都市対抗野球大会が開幕した。唯一の町代表のチームはどのような活躍をしてくれるのか。大津町の町章を腕に、「誇り」を胸に抱き、彼らは戦う。ベストを尽くすことが一番の目的。目的のあとには自然と結果はついてくる。開幕式の選手宣誓は、深澤主将が行い、ついに大会が始まった。

1回戦 TDK(にかほ市)

4回に、熊丸がカウント1-2からチェンジアップをうまく捕らえ、レフトスタンドに運ぶ本塁打で2点を先制。続く、補強選手宇多村(丁R九州)が右中間に2塁打を打ち、更に1点を追加する。5回までTDK打線を抑えていた先発の江波戸は、6回に2本の本塁打で同点に追いつかれる。8回に深澤が2死1-3塁から2塁打を打ち2点を追加。得点差を3点に広げる。8回から抑えの山中がマウンドに上がり、2回をヒット1本に抑え、2回戦に駒を進めた。

2回戦 東海理化(豊川市)

初回から先発の高峰が1点を失うが、2-3回は安定した投球で無失点に切り抜け、4回に山中に繋ぐ。6回に

3回戦 東芝(川崎市)

先発の江波戸は初回、3番打者に本塁打を打たれ、2点を献上するが、1回裏に、熊丸が2塁打を打ち1点を返す。3回に1死満塁のピンチが訪れ、上見にマウンドを託すが、満塁打を放たれる。更に5回に、河部も1点を奪われ、7対1に。

深澤の二塁打から補強選手山内のレフト前タイムリーで同点に追いつくと、工藤の三塁打で2点を追加、逆転に成功し、攻撃陣が好投する山中に依る。9回、藤野が2球目をレフトスタンドに運び1点を追加。更に西川が初球をレフトスタンドに運び二者連続の本塁打で1点を追加。最後は、山中が試合を締め、順調に勝ち進んだ。

6回、無死1-3塁から深澤の内野安打で1点を返し、更に熊丸の内野安打で無死満塁の絶好のチャンスを作る。宇多村の犠牲フライで2点を追加するが、山内、畠中と続かない。8回に深澤のソロホームランで1点を返すが、7対4でホンダ熊本は惜敗した。5回以降、高峰、山中が東芝をわずかに1安打に抑えただけに、惜しまれる試合だった。



都市対抗野球大会本選 1回戦

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
Honda熊本	0	0	0	3	0	0	0	3	0	6
TDK	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3

都市対抗野球大会本選 2回戦

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
Honda熊本	0	0	0	0	0	3	0	0	2	5
東海理化	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

都市対抗野球大会本選 3回戦

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
東芝	2	0	4	1	0	0	0	0	0	7
Honda熊本	1	0	0	0	0	2	0	1	0	4

